

今回は、8月18日に札幌で行われた、本学会初の試みとなる口腔顔面痛「入門セミナー」について、日本大学松戸歯学部の内田貴之先生に報告していただきます。

口腔顔面痛入門セミナー参加報告

日本歯科大学松戸歯学部附属病院 総合診療科 顎関節咬合科 口・顔・頭の痛み外来 内田貴之



会場の北海道大学学術交流会館第1会議室

令和元年8月18日に北海道大学学術交流会館にて、初めての口腔顔面痛入門セミナーが開催された。当日は松本では脳実習キャンプ in 信州が行われており日本口腔顔面痛学会の啓発活動の一環として同時2か所での開催であった。本学会のセミナーが北海道で開催されるのも初めてであった。

私は本来入門セミナーを受ける立場ではないのかもしれないが、今回は自分の口腔顔面痛に対する知識の整理と、最近、歯科医師会などで講演する機会を頂いているため、講演で一般の先生方に口腔顔面痛を紹介する際、どのような紹介をすればいいかの参考にさせていただきたく参加を決めた（もちろん“夏の北海道！”ということも参加を決めた要因

にあったことは否めないが...）。そこで今回の参加報告は、新しく得た知識の紹介よりも、初めて口腔顔面痛セミナーに参加した先生方の会場での反応や、今後、一般の歯科医に口腔顔面痛を紹介する際に、気をつけたほうが良いと学んだことを報告する。

石垣尚一先生（大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座 クラウンブリッジ補綴学分野）の司会にて、まず準備委員長をされた箕輪和行先生（北海道大学大学院医学研究院，歯学研究院），委員の飯沼英人先生（風の杜歯科）の挨拶からセミナーは始まった。

まず今村佳樹先生（日本大学歯学部口腔診断学講座）より、本年度の口腔顔面痛学会が主催しているセミナーと本年度の学術大会の紹介があり、特に今回のセミナーは北海道で初めての開催ということで、箕輪先生、飯沼先生とともに、多数の参加者への謝辞があった。



準備委員長の箕輪和行先生



講師の石垣尚一先生

実際のセミナーは石垣講師の「歯が原因でない歯の痛み、非歯原性歯痛とは」（非歯原性歯痛の総論）から始まった。冒頭、石垣講師は実際の症例を供覧する旨の説明後、まず、“You can never diagnose something you have never heard about”（聞いたことがない病気は診断できない）という Okeson の言葉を引用し、鑑別診断に必要な知識を持つことの重要性を強調された。非歯原性歯痛の診断だけでなく、これはすべての病気の診断に共通するものと思われる。当たり前といえば当たり前ではあるが、改めて聞いて、その意味の深

さに気付かされた受講者も多いようで、スタートとしてとても良かったと思う。また治療原則として、「非歯原性歯痛が念頭にない歯科医師は、口の中で問題を解決しないといけない、歯を触って治療しないといけないと思っ込んでしまう」、「様々な鎮痛薬の投与にて効果が得られないような状況では、人間関係のこじれを生じる」、「精神科とのタイアップが必要となってくる症例も存在するが、精神科でも治らないこともあり、その際は症状が楽になる支えになることが大事」などの説明は、これから口腔顔面痛の治療に取り組んでいきたいと考えている歯科医には、重要な指針になったと思う。

前述したように、最近、一般の歯科医に口腔顔面痛の講演をして気付く点は、口腔顔面痛に対しても他の歯科疾患と同様に「治療を始めたのなら痛みを完全にかつ即座に取り除かなくてはならない」と考える傾向があることである。このため口腔顔面痛の治療に対するハードルが高くなり、なかなか理解が得られない、もしくは「どうせ自分達には治せない病気だから」と思われてしまっているために興味を持たれないのではないかと考えている。このためまず治療（診断）のスタートと治療のゴールについての石垣先生からの説明は、入門セミナーの入り口として非常に効果的であったと思う。また非歯原性歯痛の原疾患の中で、上顎洞性歯痛については歯学教育が行われているものの、筋・筋膜性疼痛による歯痛、神経障害性疼痛による歯痛は教育が行われていないことが説明された。私も講演をする際に、筋・筋膜性疼痛の国家試験問題（2015年度 108-D-047）を提示して参加している先生方に問題を解いてもらうことをしているが、参加者一同「今はこんな問題が出るんだ...」と驚きの声を聞くことを多く経験している。口腔顔面痛というと、どうしても一般の歯科医にはハードルが高く、教育を受けていない上に、目に見えないものだからよくわからない痛みというイメージがあるようで、石垣先生の概略の説明は受講者にとって大変良い導入となったと思われる。

次に今村講師から神経障害性疼痛についての説明があった。神経障害性疼痛の概念の変遷の説明後、神経障害性疼痛と三叉神経ニューロパチーについて解説された。ここで“ニューロパチー”という言葉は初めて聞いたという受講者が多いように感じられた。このため三叉神経ニューロパチーと末梢性神経障害性疼痛の違いを説明されたが、固まってしまいメモを取る受講者が少なくなり、なじみが薄いのか理解が難しいのではと感じた。さらにその後に ICHD-3 の話になったため、かなり受講者の顔が陰しくなったように感じられた。しかし、その後の三叉神経痛の診断、神経障害性疼痛の診断、SW-test による評価・診断など、より臨床に即した内容になるとメモを取る受講者が増え、興味が湧いているのが分かった。特に保険診療の流れ、時期による治療、薬物療法については受講者の雰囲気も変わっていた。今回は臨床家の受講者も多く参加したと思われ、やはり臨床に即した内容であると、受講者の喰いつきもかなり違うと感じられた。



講師の今村佳樹先生



講師の久保昌和先生

次に大久保昌和講師（日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座）から 歯科医が知っておくべき頭痛の知識についての説明があった。まず ICHD-3 の説明と、頭痛と顔面痛の定義、一次性、二次性頭痛の説明があった。大久保先生は要点を平易な言葉で説明され、内容はとても理解しやすかった。提示されたスライドであるが、内容を間違いなく伝えることは大変大事なことだと思われる。しかし入門セミナーとしてはプレゼンで ICHD-3 の内容をベタに提示するより、大久保先生が口頭で説明、抜粋もしくは要点をまとめたものも提示、ハンドアウトを配付、大まかなものを教えて続きはアドバンスコースなどで詳細を教えるのはどうだろうか。改

めて大久保先生が口頭で説明した部分をラインマーカーで記した自分のハンドアウトを見てみると、大久保先生が大事な部分をとっても要領よく説明していたのがよくわかる。このため入門コースとしては、ハンドアウトも要点をまとめたような形にすることで、より理解を深める事はできないだろうかと感じた。

最後に和嶋浩一講師（慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室）から、口腔顔面痛診療の流れについての説明があった。もっとも重要なのは診断であり、診断は仮説演繹法に基づいた臨床診断推論で行う、ヒューリスティック（経験的に得られた知識で問題解決にあたる）に行ってはいけないとの説明があった。続いて痛みの構造化問診表、痛みのチェックシート、感覚検査、スクリーニングチェックリストと流れの説明を聞いていて、自分が臨床で仮説演繹法を用いずに、つついヒューリスティックに頼ってしまっていることに気付かされた。また、慢性疼痛の患者の医療面接時に、情報を整理しつつ自分の頭の中を整理していく作業は、合わせて患者の痛みに関する頭の中の情報の整理にもなっているとの説明があり、医療面接の際は自分だけでなく、患者も情報を整理できるような話し方、スピードなどに気を配らないといけないと再認識した。ただ仮説演繹法、ヒューリスティックについて簡単な説明があったが、診断学を学んでいるものにとっては当たり前の言葉でも、受講者にとっては初めて聞く言葉だったのではないかと思われた。また前出の先生方と同じように、診断の進め方については各々の検査、手順、診断について、臨床例と合わせた説明をされた方が、イメージが湧いてより理解が得られたのではないかと感じた。



講師の和嶋浩一先生

限られた時間内に教えるべきことが多くあるため、各講師の先生方も内容を抜粋して要点を伝えようと苦慮されていることがよくわかった。私にとっては改めて入門セミナーを受講したことは、基礎知識の整理に大変有効であったと思う。また今回のセミナーの他の受講者も、口腔顔面痛に興味を持ち参加しているので多少なりとも知識を持っているかもしれない。しかし口腔顔面痛の患者の対応を日々行なっている歯科医と一般の歯科医では、当たり前のことが当たり前ではない可能性が高い。入門として口腔顔面痛をまず理解してもらうには「受講生は一般の歯科医が持っていると考えられる知識以上のものはない」を前提に話を進めることがより望ましいと思われた。面倒なことかもしれないが、結果的には口腔顔面痛に対する歯科医の理解を深めていくことになるのではないだろうか。

【内田貴之（うちだたかし）先生のプロフィール】



日本大学松戸歯学部歯科総合診療学講座

日本大学松戸歯学部附属病院 総合診療科，顎関節咬合科，口・顔・頭の痛み外来

【略歴】

1998年 日本大学松戸歯学部卒業

1992年 日本大学大学院松戸歯学研究科修了

1993年 日本大学松戸歯学部 助手

2001年 日本大学松戸歯学部 講師

【所属学会等】

日本顎関節学会(専門医・指導医・代議員)

日本口腔顔面痛学会 (専門医・評議員)

日本口腔診断学会 (認定医・指導医・評議員)

日本総合歯科学会（認定医）

日本補綴歯科学会，日本歯科医学教育学会

News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: jsop-service@onebridge.co.jp